



富士木材センター



「富士桧」の生産団地を目指して

富士市の面積の約半分をしめる山林。ここに「富士桧」の生産団地を目指していろいろな林業施策が行われています。

昭和54年度に設置された富士木材センターは、年間約1万立方メートルの木材を取扱い、富士市の林業に大きな影響を与えています。

いままでは市場が遠いため、せっかく間伐した利用可能な木材でも林内に捨てていましたが、市場が近く

にできたことで林業家の手で搬出され、容易に現金化することができるようになりました。

このことは価値ある林をつくるのに、かかすことのできない間伐を積極的に行わせることにもなりました。

センターの将来は、現在手狭になってきた施設を、昭和57年度から県東部の広域林業拠点センターを設置し整備拡充をはかります。



私たちが、一人当たり一年間に使用する紙の量は、142kgで、世界で8番目です。そのうち故紙として回収されているのは約40%。

故紙の効率的な回収方法は、「集団回収」です。市内でも各所で行われていますが、まだまだごみの中に故紙が半分近く含まれています。

ごみの減量と故紙の再生利用に役立つ「集団回収」をみんなで相談して実施しましょう。

——進めよう ごみの減量・資源化——

ぼくの夢 わたしの夢

考古学者になりたい



富士第一小 六年
伊藤 哲希君

ぼくが、大人になったら大昔のことを調べる考古学者になりたいです。ぼくがそんな考えを持つようになったのは、社会で大昔のことを勉強してきたからです。博物館の住居あとや土器にぼくは感動した。今まで何も興味がなかったけど今はちがいます。土器や住居あとを発見したり、遠く外国にも出かけて、古代エジプトのこともくわしく調べたいです。

アナウンサーになりたい



富士第一小 六年
塚本 久実さん

4年生の頃から、私はアナウンサーに興味をもち、卒先して放送委員会を選びました。それから1年たち、だいぶ校内放送のアナウンスになれてきました。私の理想のアナウンサーは、英語を話し外国人とのインタビューに答えられることです。将来は大学を出て語学の勉強にはげみ、だれからも愛されるすてきなアナウンサーになることが私の夢です。